

平成18年度（2006年度）学校自己評価

年度末評価結果

学校自己評価委員会

本校では、教育目標及び年度重点目標を設定し、より良い学校づくりを推進しています。年度重点目標の具現化に向けた日常の教育活動について、自ら点検をし、改善すべき点を明らかにするとともに、その改善策、更なる発展をめざしての向上策を作成し、教育実践をしています。

今年度の評価及び次年度に向けた改善策・向上策は次のとおりになっています。より具体的な対策については、校内担当分掌を中心に鋭意検討しております。広く皆さんからご意見をいただき、本校の教育活動の充実と発展を図っていきたく思います。ご意見等ございましたらE-mailでお寄せ下さい。

□ 教育目標

- (1) 自主性・協調性を培い、自ら学び自ら考える力を伸ばす。
 - ① 自主的・自律的に学校生活に取り組む校風、態度を形成する。
 - ② 生徒個々の学習意欲を高め、学習習慣を定着させる。
 - ③ 基本的生活習慣の確立を図り、倫理観や規範意識を高める。
- (2) 一人一人を大切にし合い、夢や希望を育み、個性を伸ばす。
 - ① 基礎・基本を確実に習得し、創造性を高め、個性を伸ばす。
 - ② 夢や希望、能力・適性、進路に応じた目標をもち、自己実現を図る。
 - ③ 向上心をもって共に学び合い、思考力、判断力、表現力を伸ばす。
- (3) 心豊かで、たくましく生き抜く人間となる。
 - ① 幅広い学習体験や特別教育活動に取り組み、人間性と社会性を育む。
 - ② 人間尊重の精神、信頼と友情に基づく連帯感を育む。
 - ③ 地域社会の要望に応え、社会に貢献できる人間となる。

□ 中期重点目標

梓川高校及び梓川高校生の存在意義の確立

- (1) 「地域から信頼される学校」を目指して、「地域に開かれた学校づくり」を実践し、地域に根ざした梓川高校としての存在意義の確立を図る。
- (2) 梓川高校生の一人一人が将来への目標を掲げ、自主・自律的な意義ある高校生活を送り、社会の一員として自らの存在意義を確立していく。

□ 今年度の重点目標

- (1) 地域・生徒の要望に応えた、創意ある教育活動、活力ある学校づくりに努める。
 - ① 高校再編の流れの中、梓川高校の存在意義を明確にするために、将来ビジョンの確立を図る。
 - ② 将来ビジョンを具現化するために、コース制のあり方の検討と並行し、現コースの更なる充実と発展に努める。
 - ③ 地域との連携を密にすることにより、地域の教育力を生かした特色ある教育活動の展開に努める。
- (2) 基礎・基本の確実な定着と個性の伸長を図り、生徒一人一人の進路目標の実現に努める。
 - ① 一時間一時間の授業の大切さを理解させる。
 - ② 習熟度別授業・少人数制授業を実施するとともに、補習授業及び個別指導の充実を図る。
 - ③ 生徒一人一人の進路目標を早期に確立させ、その実現に向けての学習意欲の喚起に努める。
- (3) 基本的生活習慣の確立を図ると同時に、自主的・主体的に行動する生徒を育てる。
 - ① 全職員の協力のもとに「身だしなみを整える、上下履きの区別をする、ゴミを散らかさない等」の基本的生活習慣の確立を図る。
 - ② 様々な行事を通じて、集団生活のマナーやルールの大切さを理解し、自ら実践できるように生徒の社会性の高揚に努める。
 - ③ 生徒会活動・クラブ活動・学年、学級活動等を通じて、自主・自律的な意識の育成とその実践のための指導助言を行う。

□ 年度末評価

【総合評価】

昨年立ち上げたビジョン委員会が本年度は有効に機能し、本校の将来ビジョン設定の第一段階として多くの提言を打ち出した。その提言に基づいて様々な検討が進められ、その結果来年度入学生からのコース制の変更が決定されたことは、大きな成果である。来年度は20年度の本格実施に向けて、新しく設定された三つのコースの充実を図るための具体的な検討を進める必要がある。また、ビジョン委員会を中心に将来ビジョン設定の検討を引き続き行う。

シラバスの内容を変更するなどして、生徒の学習意欲の喚起に努める工夫を進めたが、なかなか生徒の学習意欲の喚起につながったと言いつれず、シラバスについては更なる検討が必要である。今年度も習熟度別学習や少人数制授業を実施し、基礎基本の定着に成果を上げた。学年主体での補習も実施されたが、その一方で生徒の進路実現のための個人補習は、まだまだ先生方それぞれの工夫による所が大きい。

今年度も本校独自の事業として就職支援員制度を行うなど、生徒の進路実現に向けて効果的な取組を継続して行う事ができたが、大きく変化してきた生徒の進路希望にも対応する進路指導計画及び具体的な実践の検討が早急に求められる。

昨年に引き続き、基本的生活習慣の確立を目指し、生徒会執行部と職員が協力して行った取組は今年度も一定の成果を上げた。今後はさらに日常的な指導取組について、全職員が共通の問題意識を持ち、充実したものになるような具体的実践を進めていきたい。今年度も、地域の皆さんから意見を頂く機会を設定し、多くの貴重なご意見を頂戴することができた。その地域の皆さんの声の中で、特に地域交流をもっと盛んにしてほしいとのご意見をいただいた。「地域から信頼される学校づくり」を進めている本校にとっては来年度への大きな課題となった。

【本年度重点目標の評価】

本年度の重点目標					
(1)	<p>地域・生徒の要望に応えた、創意ある教育活動、活力ある学校づくりに努める。</p> <table border="1"> <tr> <th>本年度の成果と課題</th> <th>次年度への改善策・向上策</th> </tr> <tr> <td> <p>梓川高校を支える会総会、学校評議員連絡会、教育懇談会等で、地元地域の皆さんのご意見をお聞きすることができた。</p> <p>昨年設置したビジョン委員会は本校の将来ビジョン設定の第一段階として多くの提言を打ち出した。その提言に基づいて様々な検討が進められ、その結果来年度入学生からのコース制の変更が決定されたことは、大きな成果である。</p> </td> <td> <p>来年度は20年度の本格実施に向けて、新しく設定された三つのコースの充実を図るための具体的な検討を進める必要がある。また、ビジョン委員会を中心に将来ビジョン設定の検討を引き続き行う。</p> <p>さらに左記の多くの会での地元地域の皆さんからのご意見に対して、より早くより効果的に対応できる職員体制を確立できるように検討を進める。更により一層の地域との連携を密にする様々な取り組みを検討する。</p> </td> </tr> </table>	本年度の成果と課題	次年度への改善策・向上策	<p>梓川高校を支える会総会、学校評議員連絡会、教育懇談会等で、地元地域の皆さんのご意見をお聞きすることができた。</p> <p>昨年設置したビジョン委員会は本校の将来ビジョン設定の第一段階として多くの提言を打ち出した。その提言に基づいて様々な検討が進められ、その結果来年度入学生からのコース制の変更が決定されたことは、大きな成果である。</p>	<p>来年度は20年度の本格実施に向けて、新しく設定された三つのコースの充実を図るための具体的な検討を進める必要がある。また、ビジョン委員会を中心に将来ビジョン設定の検討を引き続き行う。</p> <p>さらに左記の多くの会での地元地域の皆さんからのご意見に対して、より早くより効果的に対応できる職員体制を確立できるように検討を進める。更により一層の地域との連携を密にする様々な取り組みを検討する。</p>
本年度の成果と課題	次年度への改善策・向上策				
<p>梓川高校を支える会総会、学校評議員連絡会、教育懇談会等で、地元地域の皆さんのご意見をお聞きすることができた。</p> <p>昨年設置したビジョン委員会は本校の将来ビジョン設定の第一段階として多くの提言を打ち出した。その提言に基づいて様々な検討が進められ、その結果来年度入学生からのコース制の変更が決定されたことは、大きな成果である。</p>	<p>来年度は20年度の本格実施に向けて、新しく設定された三つのコースの充実を図るための具体的な検討を進める必要がある。また、ビジョン委員会を中心に将来ビジョン設定の検討を引き続き行う。</p> <p>さらに左記の多くの会での地元地域の皆さんからのご意見に対して、より早くより効果的に対応できる職員体制を確立できるように検討を進める。更により一層の地域との連携を密にする様々な取り組みを検討する。</p>				
(2)	<p>基礎・基本の確実な定着と個性の伸長を図り、生徒一人一人の進路目標の実現に努める。</p> <table border="1"> <tr> <th>本年度の成果と課題</th> <th>次年度への改善策・向上策</th> </tr> <tr> <td> <p>基礎・基本の確実な定着は習熟度別授業・少人数制授業等により進んでいる。さらに、進路目標確立のための様々な取り組みや、就職支援員制度も効果を上げてきている。しかし、生徒の進路志望が大きく変化してきている状況に対して、その進路希望の実現のために今までの進路指導計画を見直し、さらに充実させる必要がある。またシラバスについては、今年度改編がなされたが、自己評価を見る限りさらに内容・配布方法等検討の余地がある。</p> </td> <td> <p>生徒の進路希望の変化に対応した系統的な進路指導について、その計画の立案と、具体的な実施方法の検討に早急に取り組む。</p> <p>シラバス・授業アンケートについては、より効果のあるものを目指し、さらに検討を進める。また、生徒の要望に応え、補習授業・個別指導の体制作りを行い、生徒の自己実現を促す。</p> <p>授業改善に向け、同僚性を確保し、校内研修の充実を図る。</p> </td> </tr> </table>	本年度の成果と課題	次年度への改善策・向上策	<p>基礎・基本の確実な定着は習熟度別授業・少人数制授業等により進んでいる。さらに、進路目標確立のための様々な取り組みや、就職支援員制度も効果を上げてきている。しかし、生徒の進路志望が大きく変化してきている状況に対して、その進路希望の実現のために今までの進路指導計画を見直し、さらに充実させる必要がある。またシラバスについては、今年度改編がなされたが、自己評価を見る限りさらに内容・配布方法等検討の余地がある。</p>	<p>生徒の進路希望の変化に対応した系統的な進路指導について、その計画の立案と、具体的な実施方法の検討に早急に取り組む。</p> <p>シラバス・授業アンケートについては、より効果のあるものを目指し、さらに検討を進める。また、生徒の要望に応え、補習授業・個別指導の体制作りを行い、生徒の自己実現を促す。</p> <p>授業改善に向け、同僚性を確保し、校内研修の充実を図る。</p>
本年度の成果と課題	次年度への改善策・向上策				
<p>基礎・基本の確実な定着は習熟度別授業・少人数制授業等により進んでいる。さらに、進路目標確立のための様々な取り組みや、就職支援員制度も効果を上げてきている。しかし、生徒の進路志望が大きく変化してきている状況に対して、その進路希望の実現のために今までの進路指導計画を見直し、さらに充実させる必要がある。またシラバスについては、今年度改編がなされたが、自己評価を見る限りさらに内容・配布方法等検討の余地がある。</p>	<p>生徒の進路希望の変化に対応した系統的な進路指導について、その計画の立案と、具体的な実施方法の検討に早急に取り組む。</p> <p>シラバス・授業アンケートについては、より効果のあるものを目指し、さらに検討を進める。また、生徒の要望に応え、補習授業・個別指導の体制作りを行い、生徒の自己実現を促す。</p> <p>授業改善に向け、同僚性を確保し、校内研修の充実を図る。</p>				
(3)	<p>基本的な生活習慣の確立を図ると同時に、自主的・主体的に行動する生徒を育てる。</p> <table border="1"> <tr> <th>本年度の成果と課題</th> <th>次年度への改善策・向上策</th> </tr> <tr> <td> <p>様々な学校行事・生徒会活動・進路指導等、あらゆる場面で生徒の自立心・公共心を促す取り組みを進めてきた。特に文化祭や修学旅行等の場面で自主的主体的な活動が行うことで成果を上げた。また生徒会執行部と生活指導係が協力して行ったキャンペーン活動も一定の成果を上げ、多くの生徒が基本的な生活習慣の確立や公共心を育むことができたといえる。</p> </td> <td> <p>基本的な生活習慣の確立を図るために、全職員が共通認識を持った上で、恒常的な指導、具体的な取組に努める。</p> <p>生徒会活動・クラブ活動等の自主的な活動がますます充実したものになるように様々な取組を検討する。</p> </td> </tr> </table>	本年度の成果と課題	次年度への改善策・向上策	<p>様々な学校行事・生徒会活動・進路指導等、あらゆる場面で生徒の自立心・公共心を促す取り組みを進めてきた。特に文化祭や修学旅行等の場面で自主的主体的な活動が行うことで成果を上げた。また生徒会執行部と生活指導係が協力して行ったキャンペーン活動も一定の成果を上げ、多くの生徒が基本的な生活習慣の確立や公共心を育むことができたといえる。</p>	<p>基本的な生活習慣の確立を図るために、全職員が共通認識を持った上で、恒常的な指導、具体的な取組に努める。</p> <p>生徒会活動・クラブ活動等の自主的な活動がますます充実したものになるように様々な取組を検討する。</p>
本年度の成果と課題	次年度への改善策・向上策				
<p>様々な学校行事・生徒会活動・進路指導等、あらゆる場面で生徒の自立心・公共心を促す取り組みを進めてきた。特に文化祭や修学旅行等の場面で自主的主体的な活動が行うことで成果を上げた。また生徒会執行部と生活指導係が協力して行ったキャンペーン活動も一定の成果を上げ、多くの生徒が基本的な生活習慣の確立や公共心を育むことができたといえる。</p>	<p>基本的な生活習慣の確立を図るために、全職員が共通認識を持った上で、恒常的な指導、具体的な取組に努める。</p> <p>生徒会活動・クラブ活動等の自主的な活動がますます充実したものになるように様々な取組を検討する。</p>				

【項目ごとの評価】

・「評価項目」の数字は、重点目標の項目番号。

領域	対象	評価項目	評価の観点	本年度の成果と課題	次年度への改善策・向上策
教育活動	教育課程	(1) コース制の充実	<p>コースの目的・内容・カリキュラムを研究・検討し、コース制の改善を図っているか。</p>	<p>ビジョン委員会の提言が職員会において、検討され新コース制導入という結果になった。更にその結果を受けて、教育課程委員会が具体的なカリキュラム設定の議論を進め、平成19年度入学生からの実施が決定した。大きな前進があったといえる。</p>	<p>ビジョン委員会での本校のビジョンに対する検討を深めるとともに、教育課程委員会等において、できることから具体的なカリキュラムの見直しを進めていく。</p>
			<p>各コース履修者の70%が満足している（した）か。</p>	<p>生徒向けのアンケートの実施時期との関係で明確な数字が得られていないが、満足している感触を得ている職員が多いように思われる。</p>	<p>アンケート結果の分析に基づき、ビジョン委員会とも連動しながら、教育課程委員会等での具体的な検討を進める。</p>
	学習指導	(2) 学習目標の確立	<p>シラバスに基づき、生徒に学習目標・内容を公表・説明し理解させることで、生徒の学習意欲の喚起につながったか。</p>	<p>シラバスの生徒向けの説明は定着してきたといえるが、次の段階（生徒の学習意欲の喚起）という点については、職員の共通理解が図られていないのではないか。</p>	<p>生徒に対する効果的な配布方法や自身の充実等の検討を進める。</p>
		(2) 授業改善	<p>授業アンケートを実施し、基礎・基本の定着に向けた授業改善に取り組んだか。</p>	<p>今年度より、シラバスの一部とする形に変更した。全ての職員の実施という結果には至らなかったが、多くの職員は実施できた。今後はアンケート結果の共有、分析等をいかにすすめるかが課題。</p>	<p>教務係・学習係・教科主任会等が連携をとり、アンケートの作成から結果の分析までをしっかりと進め、職員間の意識統一を図れるようにする。</p>
		(2) 個に応じた指導	<p>生徒の要望等を把握し、補習授業及び個別指導の充実を図っているか。</p>	<p>先生方の個人的な努力によって、個別指導は行われているが、なかなか組織的な実践をすすめられていない。そんな中1学年が、学年主導で補習を行った（現在も継続）ことは意義のあることである。</p>	<p>学校全体としての補習授業のあり方及び体制について、検討し、生徒の願いや希望に答えると同時に、基礎学力の向上に資する。</p>
		(2) 「総合的な学習の時間」の充実	<p>生徒が主体的に取り組める学習目標・年間計画を作成し、指導体制を確立させているか。また、新たな視点を取り込む努力をしているか。</p>	<p>担当した学年によって、評価に若干の違いが見られたが、概ね高い評価を得た。今後は1・3学年の取り組みをどう充実させていくかが課題。</p>	<p>全体的な見直しも含め、系統的・体系的な学習ができるような内容・指導体制の検討をする。</p>

教育活動	生活指導	(3) 基本的な生活習慣の確立	全職員が一致し、基本的な生活習慣の確立に向けた具体的な実践項目（身だしなみ・上下履き・ゴミ散らかし等への指導）を作成、実行しているか。	生徒の様子を見る限り、着実に成果を上げていると考えられる。しかし、職員の取り組む意識・姿勢等については、差を感じている職員もあり、意識統一の必要性を感じる。	全職員による具体的な取り組みはもちろん、全職員が共通した指導ができるように、意識の統一を図る。また、生徒の意識を変えさせる取り組みについても生活指導係だけではなく、生徒会・学年会等が連携をとって進めていく。
		生徒相談体制の充実	生徒相談室係・スクールカウンセラー等と、職員間の連携を密にし、問題の解決に取り組んでいるか。	相談室としての機能を十分に果たしているという高い評価を得た。	相談室が持つ情報を精査し、全職員が共有する必要がある情報については迅速な提供ができるような取り組みを検討する。
	進路指導	(2) 進路目標の確立と自己実現	生徒一人一人の進路目標の早期確立に向けた年間計画を作成し、その実現のための指導をしているか。	指導の進め方は概ね高い評価を得ている。今後は生徒の進路志望の変化に対していかに対応した進路指導計画を作成していくかが課題。	今までの様々な実践を改めて総括し、現在在籍している生徒の実情に対応する進路指導計画の策定を検討する。
		高い目標を持ち、その実現のための向上心のある生徒の学習意欲に応える取組を行っているか。	「学習活動」の「個に応じた指導」の項目でも記述したように、組織的な指導は充分とは言えないが、1学年は学年主導で進学者向けの補習を進めている。	教科や個人で対応するのではなく、進路室・学年等が連携し、学校全体としての補習体制の確保を検討する。	
生徒会	(3) 自主性を育てる指導	生徒の自主活動に適切な助言と指導を行い、責任感・主権者意識を育てられているか。	生徒会活動は関係職員を中心に様々な取り組みがなされ充実してきている。クラブ活動に関しては顧問の先生に頼る部分が多い。	生徒会活動に限定することなく、学級や学年行事を通じ、生徒の自主的な活動への意識を高める検討をする。	
学校運営	組織運営	(1)(2)(3) 学校自己評価の実施	学校自己評価を実施し、教育活動の向上及び教育課程の改善を図っているか。	自己評価は定着してきたが、職員からのコメント数からもわかるように、決して高い意識の上になされているとは言えない。評価をいかに共有化し、次年度の教育活動につなげていくかは大きな問題である。	全職員が積極的に関わられるような、自己評価システムの検討を早期に進める。
		(1)(2) 情報集約	地域等への情報提供のための、諸活動の資料提供を積極的に行っているか。	全体的にはスムーズに集約が進んでいるが、個別の事例については、担当職員の負担が大きい。（全職員からの判断がしづらいこの設問については、来年度からは削除すべきではないか）。	職員一人一人が情報を提供しやすく、情報を処理する側も処理しやすいシステムを検討する。
		(1)(2)(3) 情報提供	本校の教育活動に関する情報や資料の公開・提供をしているか。	Eメール通信・地域回覧板等の情報の公開やHPの充実等、教育活動の情報や資料の公開・提供は進んでいるが、更なる充実を図る。	様々な機会や手段を使っての情報公開は進んでおり、今後は担当係の負担を減らすシステムの確立を検討する。
	地域との連携	(1)(2)(3) 意見聴取と反映	地域の声を聴取し、教育活動に反映しているか。	学校評議員制度、教育懇談会等、地域の声を聴取する機会を持っている。しかし、その声をすぐに教育活動に生かす所までは至っていない。	来年度も、全職員参加の下で各会を実施し、それぞれの会での地域の声に対して速やかに対応策を検討できるシステムを構築する。
		(1)(2)(3) 教育力の活用	地域の教育力の活用を推進し、生徒の学習意欲を引き出しているか。	今年もかけ声倒れになってしまった、人材バンクの活用についても含め、地域との連携をあらゆる場面で深めていく必要がある。	人材バンク制度の見直しなども含め、地元教育力の活用方法などの検討を進める。
	校内研修	(1)(2) 授業・学習指導法の改善	研修会及び公開授業は、授業・学習指導法の改善を図るための研修となったか。	公開授業が充実したものとならなかった。初任者研修・英語研修などの研修の一環の公開授業もなかなか校内での参加者が多くなかった。	多くの参加者を得られるような公開授業・研修会の実施に向けての検討を進める。公開授業の情報公開を充実させる。
		(1)(3) 生徒理解	生徒の希望や願い、夢を受け止め、対応できる生活指導・相談体制を確立するための研修となったか。	研修会に対する評価は概ね高いが、回数内容についてはさらに充実させるための検討が必要。	今年度の体制を維持しつつ、より効果的な研修会の実施の検討をする。
	施設設備	(1)(2)(3) 学習環境の整備	生徒が生き生きと活動できる学習環境を整備しているか。	清掃指導等は進んでいるが、施設面に対する課題は多い。予算的な問題が大きく対応できない課題も多い。	日常の生活の中から清掃美化活動への意識を高める取り組みを検討する。